

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合っ作成した事業所理念を施設内に掲示すると共に、事例検討や内部研修等に振り返りの機会を設け、理念に基づいたケアが提供できるよう取り組んでいる。	開所当初、全職員で掲げた理念である。利用者個々人の尊厳を大切にしている。それを道しるべに、名実共にケアに結びつけ実践されている。施設内に掲示すると共に、職員の名札裏に貼付するなどして共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや集落センターでの介護予防教室に参加したり、近隣の地域福祉担当者と連携し老人クラブ行事等への参加を積極的に行っている。また、町内会にも加入しており海岸清掃などの地域行事にも参加している。	当初は近隣住民から認知症についての理解がなかなか得られずにいたが、町内会に加入したり、地域の行事や活動に積極的に参加することで交流が深まってきている。今年度の地域の神社の祭日に獅子舞が訪れてくれ、利用者に大喜びされる。月2回の傾聴ボランティアも定着してきており、利用者との心のふれあい交流ができてきている。施設見学希望の団体が増えてきており、利用者を理解してもらえる良い機会になると快く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や実習等の受け入れや運営推進会議の実施などの機会を通じて、認知症の人の理解や支援について発信している。また、地域の方からの介護の相談などにも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催し、施設の現状や取り組む状況などを説明し、各委員から意見や要望をいただき施設運営に活かしている。	会議は定期的開催されている。主に施設の現状や取り組みについて報告され、それについて意見要望をもらっている。参加メンバーとの関係づくりも構築されてきているが、今後は行政担当者からもメンバーに加わってもらうよう働き掛けている。この会議が施設運営の要となり、より質の高いサービスが提供できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは議事録などで、取り組み内容や問題点を伝えている。必要時にはその都度、電話やメールで連携を図っている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員にも参加していただいている。	行政担当者とは施設の実情やサービスの取り組み等が書面で報告され、又、必要時には電話やメール等で連絡が取られており、協力関係は得られている。	今後は行政担当者と職員や利用者との交流の機会や利用者の暮らしぶりやニーズ等の具体的な連携強化が望まれる。施設を研修場所として活用してもらう等の働きかけも一案である。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて、身体拘束の対象となる具体的な行為について学んでいる。玄関の施錠は安全を考慮し夜8時以降のみ実施し、日中は自由に出入りしていただいている。	現在は利用者も落ち着いていて身体拘束のないケアが実践されている。内部研修も実施されているが、施設外研修に参加した職員の報告にとどまっており、具体的な行為について掘り下げた話し合いまでに至っていないように見受けられる。	今後は高齢者の権利擁護や身体拘束の持つ意味、対象となる具体的な行為を全職員で理解が図られるよう、繰り返し徹底していくことが望まれる。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、高齢者虐待防止関連法や事例について学んでいる。また、法人内研修や伝達研修にて職員のメンタルヘルス研修を実施し、職員の心の健康維持を図っている。	職員が掲げられた理念の共有実践にあたり、内部研修において高齢者虐待防止関連法の事例をもとに具体的な研修を行っている。各ユニットでサービス提供時に、潜在する危険のある言動にはユニットリーダーが中心となり対応し、周知徹底されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用されている入居者の事例を通じて学んでおり、他の入居者への必要性の検討につながっている。また、入居時に関係者へ説明等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定の際は利用者や家族等に対しわかりやすい説明を行い、疑問点を解消し納得していただけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時にご家族等と一緒に話す時間を設けたり、散歩や入浴時に職員と1対1で接する機会などを活用して入居者・ご家族等の意見や要望を引き出すよう工夫を行っている。 問題とを感じる意見等に関しては、ユニット会議などで速やかに共有し改善につなげている。	意見箱は設置されているが利用されていない現状がある。日頃、面会時等で利用者、家族からの声を汲み取れるよう声掛けする等の工夫はされている。この度の外部評価調査における利用者、家族のアンケートでは予想外に多くの意見が出された。管理者は、今後法人の中でアンケート調査等をしたり、直接本部へ声が届くシステム作りを検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットで会議を開催し、自由に意見等を出し合い、所長や支所長へ随時議事録等で報告している。 事業所だけでは対応が困難な事例については、本部へも報告し解決につなげている。	各ユニットリーダーは正職員、臨時職員、パート職員の隔たりなくチームワークが築けるよう環境作りに力を入れている。ユニット会議では、発言も多く忌憚のない意見が出されている。職員からの声は真摯に受け止め解決に繋げている。正職員には人事考課のための個人面談を年4回実施して意見要望を聴取している。臨時職員、パート職員についても日常会話の中や、時には1対1で対話している。良いアイデアが聞けることが多いとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員の資格取得を奨励しており費用等の助成や取得方法などの情報提供を行っている。 また人事考課制度を導入し各自が向上心ややりがいを持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修計画を作成し、職員一人ひとりのキャリアや力量に応じた研修の参加を計画的に進めている。 また県の事業を活用することで、講師を派遣してもらい施設内で研修会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内5カ所の全グループホームが参加するグループホーム協議会を設置し、年4回情報交換や運営について検討を行っている。また他施設の運営推進会議に出席し、互いのサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に、日常生活に関する調査票に基づき本人の状態を把握、不安や要望を感じ取り信頼関係を築けるよう努めている。また入居前に施設見学をお勧めし不安を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に要望や困っていることなどを把握して、問題解決の努力をすとともに、話しやすい関係となるよう信頼関係の構築に努めている。また前任のケアマネジャーなどから情報をいただき支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの聞き取りや担当ケアマネジャーとの情報交換などから必要な支援を見極めている。必要時には各施設などと連絡を取り合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の能力に合わせて、一緒に作業や行事等に参加することによって、お互いが支えあって共に生活できる場となるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしぶりなどを毎月家族に報告したり、一時帰宅や通院介助などの協力をお願いしたり積極的に連絡を取り合うことで、気軽に訪問できるような雰囲気作りに努めている。 関係が疎遠にならないよう、家族との昼食会を開催している。	毎月本人の写真入りの便り(施設での様子等)が家族に発信されていて、家族からは生活の様子がわかり、非常に喜ばれている。また、遠方にいる他の家族からも依頼があれば送付して喜ばれている。本人の状況を家族と共有することで、共に支えあう関係づくりに努めている。事例として自宅農家の作付が心配になっている利用者には、家族と話し合い田んぼの写真を撮ってきて見てもらって安心してもらったこともある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りに参加したり、馴染みの友人との食事会に出掛けたりするなど交流が継続できるよう支援している。 また親族や知人の方が気軽に面会に来られるような雰囲気作りに努めている。	利用者は佐渡全島から集まっており、出身地の伝統ある祭りに職員が付き添って出向き、顔見知りの方々と交流ができるよう支援している。中には学生時代からの親友数名が継続的に訪ねてきてくれ、一緒にドライブして日帰り温泉を楽しんでいる利用者もおられる。同じ出身地の利用者が同じユニットにいてそれぞれ共通の話題を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間散歩に行ける時間を確保したり、部屋の行き来をして利用者同士が交流できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養などに入所された方へ面会に行ったり、家族にもいつでも相談できることをお伝えしている。必要時には、支援を行える体制づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話の中で表情や発言を見逃さず本人の希望や意向をくみ取り、ケアに反映できるよう努めている。	一人ひとりの思いや希望を大切にしており、傾聴ボランティアを積極的に受け入れて効果をあげている。職員と1対1の関係性を大切にしている。特に風呂の時間には、どのように暮らしたいと思っているのか等々、さりげなく言葉や表情から汲み取る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・在宅ケアマネジャー、包括支援センター、利用していたサービス事業所から情報を収集し、入居後も日々の会話や面会などの話から本人の理解に繋げ、馴染みのある生活が継続できるよう努めている。	センター方式を使用し入所時点での情報把握に努めている。家族からの以前の暮らしぶりや地域の人との馴染みの中での交流や、地域への訪問時に自ら「私昔ここで…」等思い出す言葉などを書き加えて、本人の大切にしてきた生活歴や地域の中での関わりへの把握が入所後も継続して行なわれている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、申し送りノート、バイタル測定表、定期的に行うユニット会議、私の基本情報シートなどを活用し、職員間で現状把握・情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に同席してもらいサービス担当者会議を開催し、モニタリング・評価・介護計画を作成している。遠方、欠席の家族には電話や面会時に要望・意向を確認している。	本人・家族との参加で介護計画を作成している。モニタリング・評価は本人に確認したり、参加できない家族には電話や面会時に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・工夫は個別記録や申し送りノート、口頭などで情報共有した上で、定期的カンファレンスを行い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや帰宅の支援や買い物など、本人やご家族の希望や状況に応じて柔軟に対応している。法人内の地域福祉係と連携し幅広く行事等に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の買い物や地域の祭りや行事、はつらつ教室の参加や老人クラブの行事などに積極的に参加し、地域住民やボランティア等との交流を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望する主治医に受診できるように対応している。 希望や状況に応じて、事業所職員による受診の援助も行っている。	基本的には家族の受診付き添いが多い。必要時、職員が受診に付き添いすることもあり、医師に日常の状態を詳しく伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師の配置はないが、協力医療機関の受診時等に情報や気づきを伝達するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い、入院中は面会や看護師・ケースワーカーとの情報交換を通じて状況の把握を行うことで、家族・本人が安心して治療ができるよう適切に対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について契約時に説明し同意を得ている。 また状態の変化に応じて、本人、家族、主治医等と協議して方針を共有し不安の軽減に努めている。	契約時に重度化した場合や終末期についての説明を行なっている。今までの介護の経験を大切にして、看取りへの指針の確認や職員による利用者の状態の変化や、重度化への学びが始まったところである。	本人・家族の意向や事業所の持つ、現在の支える力量等を適切に把握しながら、定期的な訪問看護サービス導入や地域での医療連携体制のチーム作りを積極的に働きかけることを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、AEDの使用訓練、応急手当や初期対応の訓練を定期的実施するとともに、夜間の協力体制についてマニュアル等に明記し速やかに連絡がとれるようにしている。	リースのAEDの設置を行ない、定期的な点検や消防署との連携で急変・事故発生への応急手当や初期対応マニュアルの見直しを含めて学んでいる。利用者の毎日のバイタル・食事量把握等の記録整備に努め工夫が見られる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の事業所と避難訓練を実施したり、実際に避難場所までの移動訓練を行い、避難時の経路や場所、問題点を職員間で共有している。 また、地域の自主防災会へ参加し地域との協力体制の構築に努めている。	利用者も地域の自主防災会に参加している。運営推進会議で家族から津波を想定した際の避難手段について意見が出され、今までの軽自動車ばかりではなく、10人乗りの車が共同で使用出来るよう配置された。その後、利用者と共に実際に即した避難訓練を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある姿を大切にし、プライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行っている。	本人の尊厳や誇りを大切にしている。言葉かけや洗濯物の干し場所などを考慮しながら、誇りやプライバシーが損ねないかを職員内で申し送りをするなど、皆で配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような言葉掛けや雰囲気作りに努めている。 思いが伝えづらい方には選択肢を出し選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムの維持のため一日の流れは大まかに決まっているが本人のペースで生活できるよう柔軟に対応している。 体調にも配慮し、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通いなれた美容院へ行ったり、希望者には近隣の美容師に来てもらい髪の手入れをしている。 個性を大切に、買い物に出掛けた際は好みにあったものを選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を生かし、下ごしらえ・盛り付け・食器洗い・食器拭きを行っている。 ユニットの畑で収穫した野菜を使ったり出前をとるなどし、いつもと違った雰囲気です食事を楽しんでいただける工夫もしている。	地域の方から季節の野菜や果物等々食材の差入れがあったり、敷地内の畑で収穫した物を食べることが多い。食事内容や栄養バランスも考慮されており、利用者の表情からも食事を楽しむ様子が汲み取ることができ、準備・後片づけに張り切る姿が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食の栄養バランスを考え、嗜好や体調に配慮し、身体状況に合わせた調理法で提供している。季節感を盛り込み、色彩豊かにし、見た目も大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・支援をし、夕食後は義歯の消毒を実施している。また、外出後もうがいを促し、口腔内の清潔保持と感染予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声掛け・誘導を行っている。リハビリパンツやパット類はあくまでも補助的なものと考え、なるべくトイレですっきりと排泄ができるよう支援している。	個々の排泄パターンが把握され、本人の尊厳や誇りを大切にし、リズムに合わせて、なるべくトイレ誘導し、排泄出来るよう支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれているお茶を飲んでいただいたり、散歩や体操を日常的に取り組み、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に一日おきに入浴を実施し、しょうぶ湯やゆず湯など入浴を楽しめる工夫をしている。体調や希望に応じて対応し、本人のペースで入浴が行えるよう配慮している。	入浴は毎日行なっているが、利用者は1日おきくらいで利用されている。受診前や床屋の後などは本人の要望や必要に応じ入浴を支援している。とくにゆっくりとした雰囲気、1対1の関係が持てる大切な時間と職員は考えており、本人の満足や安心の時間としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でゆっくり自分の時間を楽しんだり、休息していただいている。寝具、室温調整、照明についても配慮し、気持ち良く休めるよう衛生面にも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はダブルチェックを行い、誤薬がないよう留意している。また、用法や用量、効能や副作用に関しては薬の説明書等を確認し、理解に努めている。副作用が疑われる時など必要時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて新聞の取り込み、調理、畑仕事など役割分担をお願いしている。趣味・嗜好品のある方に対しても個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の購入、お墓参り、希望される方には家族の協力を得て外泊を行っている。季節にあわせた花見ドライブや地域の方の畑で芋掘りをさせてもらうなどしている。	図書館に通い本を借りる利用者や個別の買い物への対応・墓参り・外食等、本人の希望に沿って工夫しながら外出支援が行われている。開所当初は近隣住民から認知症についての理解は少なかったが、今は機会ある毎に、地域の方々との交流ができ理解されてきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、利用者預り金要領に基づいて管理しているが、預り金からの購入時は本人から支払できるよう支援している。自己責任で金銭の本人所持についても可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と自由に連絡が取れるように希望に応じて支援している。ユニット内での通話を気にされる方は、事務所の電話を使用している。居室での携帯電話の使用も自由である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには季節の花を飾っている。七夕、クリスマスなどは利用者と一緒に飾りつけを行っている。 室温や清潔さにも気を配り、居心地の良い空間作りに努めている。	地域の老人クラブの方々やボランティアの訪問がある。壁面の飾り等季節感も感じられる居心地良い空間作りが行なわれている。 所々に大きなクローゼット・物置が有ることで共用の部分は使い易く整理整頓され、清掃も行き届いており気配りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに大きさの違うソファを置き、一人でゆっくりくつろいだり、気のあった人と談笑できる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら使い慣れた物、馴染み身の物を持ってきていただいている。 ダンス・ござ・椅子・アルバム等を設置してもらい居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	自宅から持ってきた本人にとって大切な思い出の絵を自分の部屋に飾る方、小型の冷蔵庫を持ち込んでいる方等、それぞれの形で暖かい家庭的な雰囲気の中で本人の気持ちを大切に支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活行動の把握に努め、危険力所がないか確認し、行動の妨げにならないよう配慮している。 居室には名前を表示し、分かりやすいように工夫している。		